

川 上 社 長 年 頭 挨拶

あけましておめでとうございます。



毎年、1月4日は皆さんと新年会で会えるのを楽しみにしておりましたが、
新型コロナウイルス感染症対策として、密を避けるため、今年は健康診断のみの実施としました。

当日は、昨年皆さんが感染リスクの有る中で業務に従事して頂いたことを労い、
感謝を直接伝えなかったのですが、それが出来ず本当に残念でした。
皆さん「ありがとうございました。」心より感謝しております。

さて、昨年の営業についての報告です。
総売上は、35億6,500万（前年比約-3%）となりましたが、
業務改善申し入れの結果、破談となり撤退した2社の売上減が主で、
新型コロナウイルスの影響は最小限に留められたと思います。
また利益に関しては原油価格の下落分で得たものを差し引くと、
期首に計画した予算額に近いものとなり、
皆さんの頑張りのおかげで良い結果が得られております。

しかし一方で、物流全体の動きが鈍って来ていることは間違いなく、
苦境の荷主様においては自社運行を検討する動きが顕著になっている事や、
荷の減少によりトラックが余り気味のため、
低い運賃であっても運行を引き受ける業者が現れて来ており、
当社としては油断出来ない状況にあります。

こうした状況の中、お客様が運行便を見直す必要性が生じた場合、
協力会社の中からお客様はどの業者を外していくことになるのでしょうか、
私は日常の輸送品質が大きな判断材料の一つになると思います。
間違いなく、皆さんの日頃の業務態度が勝負の分かれ目だと感じています。

私たちは信頼され、荷主様の代わりに荷物を届けていることを忘れてはいけません。
私たちはお客様の信用も運んでいるのです。

荷主様もトラックが足りない時は、輸送品質に不安を感じる会社であったとしても、荷物を届けることを優先し使ってくれますが、トラックが余っている状況であればその必要がなくなります。

よもや大成運輸が輸送品質や交通マナーを理由に減便を申し入れられることは無いと思うのですが、昨年ヘルメットの未装着（同じお客様のところで、違うドライバーさんで3回=大成が3回）や乱暴な荷扱いが一部で発生したとの報告も受けていますので、俺ぐらい、これぐらい、と軽い気持ちでの行いが、そうしたとき会社全体の評価となり、仲間を危機にさらすことになりかねません。会社としては大変辛い事ですが、多くの仲間のために、そういう気持ちの方は外れてもらわなくてはなりません。

次に、来年の営業等の目標ですが、売上げは、年始より梅雨時期までは新型コロナウイルスの影響による企業活動の縮小や引越越し荷物の集中緩和策などの影響で、昨年度より若干減少するものの、昨年より引き受けています大手ディスカウントストアの飲料運搬が気温の上昇に比例し貢献してくれると思われ、通年では昨年と同等の売上げを見込んでいます。

また、事故違反については大きな事故につながる運行の速度、休息、信号の順守について重点指導事項とすることはもちろんですが、さらに昨年後退事故が16件と事故発生件数の約30%発生させた反省から、まずは『ストップ・バック事故』のDVDを見て危険を再認識して頂き、点呼で定期的に注意喚起を行い、必ず半減させたいと思います。

労働災害については、昨年1か月以上の休業を伴う労災事故が8件発生したことを踏まえ、

安全スローガンを『あわてる動作 左右見ずに前ばかり はやる心にブレーキを』としています。

幸いにも今回は後遺障害が残るような怪我はありませんでしたが、皆大変痛い思いをしたと思います。そのようなことが今年は起こらないよう、産業医を交え安全衛生委員会において定期的にリスクアセスメントを行い、危険個所を洗い出し皆さんへ周知していくことで災害の未然防止に努めます。

最後に、コロナ禍の中、積み地や卸し地で担当者との接触機会が多く、さまざまな対応を迫られることが多いと思いますが、本年2月よりコロナ感染症のワクチン接種が始まるとの報道もあり感染縮小の気配もあります。関東1都3県では緊急事態宣言が発出され楽観はできませんが、会社もお客様と協力し最善を尽くして行きますので、本年もよろしくお願いいたします。

浦尾会長年頭挨拶

明けまして おめでとう ございます

昨年はコロナ禍の話を外せない1年でした。
今後も予断を許しませんが、この1年だけでも
後世の歴史の教科書に載るような、大きな出来事でした。

皆さんの現場では大変な苦勞も多かったと思いますが、
おかげさまで「大成丸」は、ほぼ無傷で航海を終えることが出来ました。

逆に、原油安（年始の浦尾の予測と全く逆になって）のメリットで
追い風を受けて、余裕を持った航海でした。

ありがとうございました。

未だ終息の見えないコロナ禍を踏まえて、「大成丸」のこの1年は、
どの方位からのマークに対しても組織で対応できる、
バスケットの「ゾーンディフェンス」のイメージで戦いたいと思います。
成功の条件は、ディフェンスの選手同士の連携だそうです。

今までに無かった色々なトラブルやクレームが発生すると思います。
何か事が起これば、皆でそちらを向いて、次の対応を共有し、
マークをやすやすとゴール下に潜り込ませないように
皆さん個々の「貢献」は勿論、チームとしての連携やフォローを

よろしくお願いします。

昨年末の外部文書（子育て本）で、勉強になったのを一つ。

「叱る」と「怒る」の違いがわからないというママパパは多い。
「叱る」は子どものことを考えたもの。
「怒る」は大人の一方的な都合のもの。
それでも違いが難しければ

「この子が幸せになりますように」

と思いながら言えたら、それは「叱った」と考えていい。
でも、ママパパも人間だから怒っちゃうときもある。
それは当たり前だから自信を無くさないでほしい。

子ども⇒皆さん、ママパパ⇒上司・会社 に置き換えて、もう一度。

「叱る」ことの方が断然多い、社風に向かいますね！